

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300355		
法人名	(有)野いちご		
事業所名	グループホーム野いちご	ユニット名	A棟
所在地	福岡県八女市矢原51番地1		
自己評価作成日	2020年11月6日	評価結果市町村受理日	2021年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年11月25日	評価確定日	2020年12月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に恵まれ、利用者、家族に支えられたグループホームです。地域に貢献し、利用者様等が安全安楽に過ごしていただけるようなグループホームを目指します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム野いちご”は2つのユニットがある。A棟は夕陽を眺めることができ、B棟は朝日が入り、個々のユニットの職員全員で、理念にある「今」を大切にしたケアが行われている。ご利用者の有する能力を丁寧に把握し、理念にある「あきらめない生活」が送れるよう、少しでも自分で歩けるように職員が寄り添い、歩行器でゆっくりトイレに行かれる方もおられる。少しでも食事を食べられるよう、職員の優しいケアが続けられ、法人の厨房から届く美味しい料理を食べられている。干し柿作りを含め、季節行事も大切にされており、ご利用者から指導して頂く場面も多い。理念にある「自分らしく自由な」生活が送れるよう、ご本人がお好きな「小説」「トランプ」「編物」などを楽しんで頂いている。ホーム長、両ユニットの管理者(リーダー)を中心に、地道にチームワークを強化してこられ、社長を含めて運営者とも結束し、理念である「一日一日を大切に『今を』大切にする暮らし」を続けているホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいて、日常のケア、毎朝のミーティング、全体会議等を通してその都度情報の共有に努めています。	「1日1日を大切に『今』を大切に暮らす」等の理念を大切にされている。食事、排泄、入浴、歩行等を含め、ご利用者の有する能力を丁寧に把握し、日々の寄り添いや励ましの言葉を掛けながら、理念の実践に繋げている。職員全員、言葉遣いに配慮したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事、道路愛護や不燃物回収、神社等の清掃に参加し交流を図っている。	管理者が町内の草むしりや総会に参加し、地域の課題等を共有したり、ご利用者と一緒に小学校の文化祭に参加していた。敬老会にボランティアの方が来て下さり、2019年春は「ハッピーマサース」の慰問があり、歌や体操を楽しまれた。今後も子ども達との交流方法を検討予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問等の受け入れを行い、認知症への理解を促しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した行事や取り組みの、今後の予定、地域の情報の共有を参加者から意見をいただき、サービスの向上に努めている。	2020年3月～9月はコロナ禍で書面会議が行われ、電話でご意見を頂いていた。集って開催する際は、家族の方が市の職員に「運営推進会議の趣旨等」の質問もあり、丁寧に説明して下さった。区長様よりコロナ禍の「回覧板の回し方」や「お宮掃除は予定通り」等の報告を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いております。必要時には連絡を取りご指導を頂いております。	2020年度、八女市の実地指導を受け、重要事項説明書等の改善を行った。八女市役所から毎年ハザードマップを頂き、災害対策室からも台風の時期に連絡を頂いており、系列ホームへ避難する前後は八女市に報告している。ご利用者の入退居情報も電話で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、19時～6時まで防犯目的にて施行。身体拘束適正化委員会の実施。全体会議や、運営推進会議時の意見交換等。	運営推進会議の時や、コロナ禍は全体会議で身体拘束適正化委員会を行い、内部・外部研修に参加している。穏やかに過ごされている方が多く、ご本人の生活ペースを大切に、無理強いしないように努めている。家族にも「身体拘束を行わない事」とリスクを伝え、理解して頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会時の内容を全体会議や朝の申し送り時に、その都度報告し情報の共有化に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域包括支援センターの職員への質疑応答を行った。	地域包括職員から権利擁護の研修を受けていたが、コロナ禍で中断しており、収束後に再開したいと考えている。入居時にパンフレットを使用し家族に説明すると共に、入居後も制度の必要性を検討している。以前、制度を利用していた方もおられ、後見人と情報交換を続けていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明し、ご理解していただいていると思う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見などを、運営推進会議等にてご家族様に確認し、ケアプラン等に反映できるようにしている。	入居前にホーム長が老健等を訪問し、ご本人と家族の思いや不安を傾聴している。コロナ禍も家族と玄関先で面談したり、電話で情報交換しており、面会や外泊の要望を伺っている。担当職員がお便りを書き、通信と写真を同封し、暮らしぶりを報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やリーダー会議を行い、その中で意見や提案等を出している。各棟でも行い、細かい点の情報の共有化を図っている。	職員は、社長やホーム長、管理者(リーダー)等に思いや意向を相談し、全体会議やユニット会議等で日々のケア内容やコロナ禍の外出等を検討している。2020年度から法人全体の施設長(ホーム長)会議が始まり、各事業所の現状や要望の共有と共に、災害対策の協議が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、公休の希望を確認し、身体や私生活に無理のない職場環境を作れるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や、性別等にて採用を考えるのではなく、職員が利用者の立場にたてる力量を重視している。良い能力があれば、活かせるように取り組んでいる。希望の休みを確認することにより、社会参加等が出来るように配慮している。	採用時は資格の有無は問わず、介護の仕事の理解度を確認すると共に、経験や知識に応じた個々の教育を行っている。職員の年齢幅は広く、年代毎の情報の差は見られるが、日々楽しむことを大切に、残業無しの「働きやすい環境作り」に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より、サービスを通じて人権・尊厳を重んじられるように促している。	ご利用者は「人生の先輩」であり、「笑顔であいさつ」を心掛けている。ホーム内に「あいさつ」「身だしなみ」等の標語を掲示し、振り返りが行われている。ご利用者の立場に立てる力量を職員個々に確認し、地道に言葉遣いの指導を行い、着実に効果が出ている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会の実施や、地域のグループホーム部会による研修会への参加を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会を通じて同業者間の交流や、最新の情報の共有に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を行い、心身の状態、病状の確認を行い、情報収集を行い、さらに、情報提供と照らし合わせ、利用者が最善の環境にて受け入れられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様よりの、本人様や、ご家族様の情報を確認し、安全安楽に過ごせる生活の場の環境づくりに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時期によっては相談件数や、空室の問い合わせも多くあり、現在に状況を確認しつつ対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がそれぞれに意識しながら関係づくりを行っている。利用者とは一方通行にならないように寄り添いながら対応している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的には面会時間の制限は行はず、いつでもゆっくり面会できるように心掛けています。家族様よりの情報を聞くことでよりサービスに反映出来る様にしています。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には出来るだけゆっくりと過ごしていただける時間や雰囲気、環境の提供に努めています。	ご利用者と職員が同郷の方もおられ、地元の会話を楽しまれたり、家族や親戚と葉書のやり取りをされる方もおられる。コロナ前は知人の訪問があり、一緒に散歩に行かれたり、家族とお墓参りに行かれていた。2021年1月のお正月に外泊予定の方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切に、各自コミュニケーションが取れるように家庭的な雰囲気を作れるように支援を行っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には「何かありましたらいつでもご連絡してください」と声掛けし、いつでも相談を受けられる環境を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちに寄り添うことで把握し、今、何が必要かを検討している。	日々の会話の中で、「自宅に帰りたい(家族に会いたい)」「本をゆっくり読みたい」「煮物が食べたい」等の要望を伺っている。意思疎通が難しい方も、些細な表情や仕草、体調等を丁寧に確認すると共に、昔の仕事(イチゴやブドウ栽培等)も会話のきっかけにされている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントや情報提供書、家族への聞き取り、本人への確認を行い、サービスの提供につなげている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況を記録し、職員が把握し、それぞれの生活リズムを構築できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度検討し、毎月の全体会議やサービス担当者会議時に検討している。	生活歴や病歴、「認知」「見当識」、ADL等の「できそうな事」「要望」「解決策」「留意点」も含めて情報把握に努めている。「最後まで歩けるように」「食事が食べられるように」等の視点も大切に、生活リズム、日々の役割等を盛り込み、日課表に24時間全般のケアを記載している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か変化や、特記事項がある際には記録に残したり、赤文字にて表記している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なじみの職員における信頼関係の構築。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等により外出による四季を感じる時間や、慰問の受入れによる地域との交流の機会が図れるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今迄のかかりつけ医を継続して頂いているが、病状の変化に伴う際には家族に連絡し対応している。	月2回の往診時を含め、24時間体制で医師に相談できる。職員の観察力もあり、早期対応に繋げており、系列ホームの看護師も毎週訪問して下さる。家族が通院介助された際も情報共有し、内服薬の変更時や検査の際は病院の看護師に職員が電話し、内容確認をしている。	認知症の病気が多様化しており、今後も看護師や薬剤師などから研修を受ける機会を作り、病気と症状に応じた日々の声かけやケアに活かしていきたいと考えている。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護があり、その際に看護師より指導や情報の提供を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	先方の機関との連絡を取り、病状の確認や退院時期の確認を行い、医療連携を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応を説明し、同意を得ている。その際にはその都度家族との話し合いに場を設けている。	終末期等の意向確認を行い、「最期までここで(延命治療はしない)」等の思いを伺っている。体調が変化した際は、日々揺らぐ家族の心に寄り添い、柔軟に対応している。主治医や医院の看護師の訪問もあり、点滴を受ける方もおられ、終末期は訪問看護も利用している。職員全員で「今」を大切にしたケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。避難訓練時に応急手当の講習を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より年2回の避難誘導訓練時に指導委員に来ていただいている。	消防署と夜間想定訓練をしている。自然災害対策もマニュアル化し、矢部川もあり、豪雨の際は新庄にある系列ホームに避難している。自然災害時は事前避難が前提であり、非常食は少し備蓄し、災害備蓄品セット等を準備している。避難時にはシャッター全て閉めることにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性もあるが、言葉使いを注意していくように促している。又、職員間でも注意や指導を行っている。	ご本人に応じた言葉を選び、語尾を柔らかくするようにしている。接遇委員会で「馴れ合いになっていないか」等の振り返りを行い、ホーム長や管理者からの指導も行われている。今後も病状に応じた声かけの仕方を習得し、日々の実践に繋げていく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員には、利用者に寄り添えるように促している。利用者よりの訴えを傾聴し、謙虚な姿勢にて対応できるように心がけるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には、利用者に寄り添えるように促している。利用者よりの訴えを傾聴し、謙虚な姿勢にて対応できるように心がけるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合わせ、コーディネートを本人に確認していきながら、好みの確認を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや下膳など利用者に手伝っていただき、職員と協力して行っている。旬の食材を利用し季節感を味わえるメニューを提供できるように考えています。	法人内の厨房で全事業所の食事を作る。ご利用者の要望を活かした旬の美味しい料理であり、社長等が届けて下さる。ご利用者もお盆拭き、食器洗い等をして下さり、月1回の「自炊の日」は、ご利用者が包丁で皮むきをして下さる。少しでも食べられるよう、優しい介助が行われている。	台風で畑が被害を受け、野菜作りができなくなった。今後もプランターなどを含めた野菜作りの方法を検討し、ご利用者の楽しみや役割作りに活かしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の確認を毎食時・毎日行っています。本人の嗜好を確認し、少しでも食欲が出る様に工夫しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。希望者には週1回の歯科診療を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ個別の排泄リズムの合わせたトイレ誘導や、声掛けを行っている。	日中・夜間の排泄状況を確認し、失禁が軽減できるように努めている。布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、必要に応じて誘導し、パッドの大きさも個々に検討している。紙パンツ使用の方も、ご本人のお気持ちを大切にしながら、布パンツの可能性を見極めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数、量のチェックを行い。出来るだけ自然排便を促せるように、運動や、きな粉牛乳などの水分補給を行い排泄を促している。必要時には主治医の指示の元、緩下剤や、座薬の使用を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後よりの入浴を行っているが、本人の希望があれば、個々の希望に添える時間や曜日の設定を行っている。	職員見守りの中、ご自分で蛇口をひねり、湯温調整できる方もおられる。入浴好きな方が多く、湯船に浸かる方も多く、2人介助も行われている。シャワー浴を希望する方もおられ、足浴等で保温に努めている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯もされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活習慣を考慮した上で安眠できるように心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示された副作用については各スタッフへ申し送っている。内服薬の調整等については主治医に相談している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を確認し、出来る事、やりたいことを見出して希望に添った個別支援が行えるように心掛けている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるように外出行事を行っている。家族よりの外出や外泊を希望の際にはスムーズに対応できるように心掛けている。	気候の良い日は玄関での日向ぼっこや、中庭で体操や散歩をされている。コロナ以前は近くの公園や花見(桜や藤、コスモス等)、道の駅、八女伝統工芸館に行かれたり、お正月は地元神社を参拝されていた。コロナ収束後の更なる外出を楽しみにされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望があれば立て替え金から本人に渡し対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望や、訴えがあればその都度対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音には特に注意している。不快な音や、大声、混乱を招く音、動きに注意している。排泄時の使用物品に関しては、一つ一つ新聞紙に包み処理している。	周囲は田園が広がり、季節の移ろいを感じる事ができる。リビングの天井は高く、台所も同じ空間にあり、香りを楽しむ事ができる。リビングのテーブルで職員と一緒に作業し、楽しく会話をされている。脱衣場にエアコンを増設し、快適な入浴になっており、適宜換気も行われている。今後も廊下とリビングの温度差対策を検討予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ配慮した、交流の場を作ったり、一人の時間を大切にできる空間を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、持参してもらうように入居時に伝えている。	全ての居室に電動ベッドを備え付けている。布団、タンス、時計、椅子等を持ち込まれ、人形や家族の写真等が飾られている。行事の際、ご本人がお好きな小説をプレゼントし、居室で読まれたり、ご本人がお好きだったトランプを家族が持参して下さり、職員と楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者それぞれに「できること」「わかること」を職員が把握し、出来るだけ自立した生活が継続できるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				